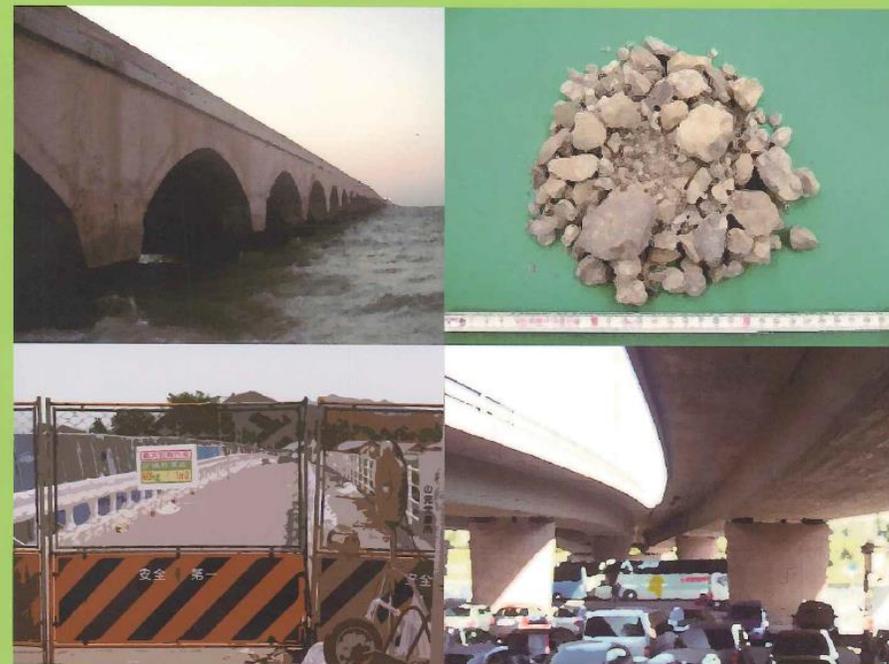


再生骨材のCO2固定化 を目指して

コンクリート構造物の 補修・解体・再利用における CO₂削減を目指して

— 補修における環境配慮および解体コンクリートのCO₂固定化 —



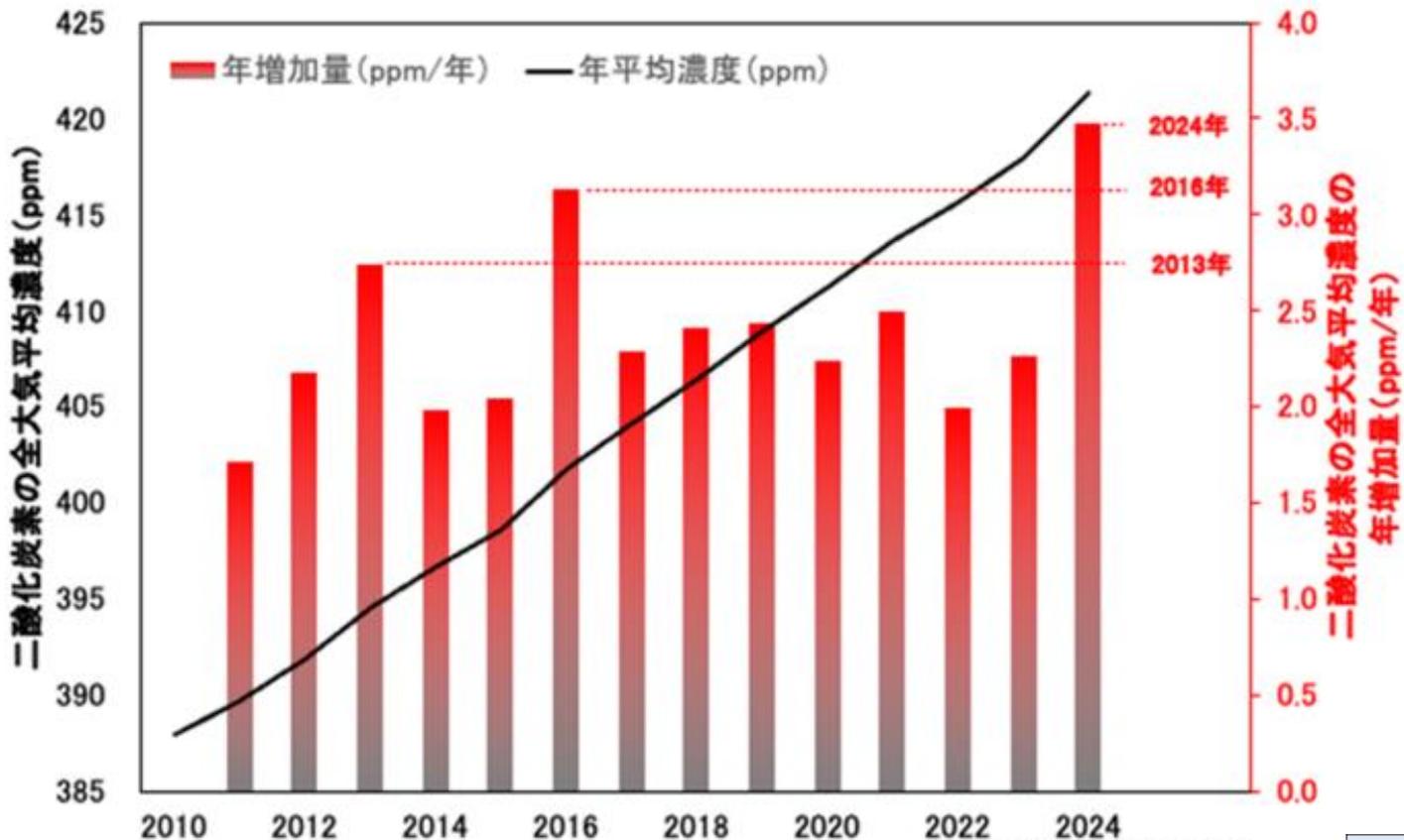
• GOSATシリーズについて

GOSATシリーズは環境省と国立環境研究所、JAXAが連携して推進している地球観測衛星プロジェクトで、宇宙から主要な温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの大気中濃度の観測を行うことを主目的。

2009年には1号機（**温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」**、GOSAT）、2018年には2号機（**「いぶき2号」**、GOSAT-2）を打ち上げ、15年分以上のデータを蓄積した現在も2機を運用中。さらに、2025年6月24日には3号機（**温室効果ガス・水循環観測技術衛星**、GOSAT-GW）を打ち上げる予定。



GOSATによる二酸化炭素の全大気平均濃度とその年増加量



©環境省/NIES/JAXA

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
年平均濃度 (ppm)	388.0	389.7	391.9	394.6	396.6	398.6	401.8	404.0
年増加量 (ppm/年)		1.7	2.2	2.7	2.0	2.0	3.1	2.3
年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
年平均濃度 (ppm)	406.5	408.9	411.1	413.6	415.6	417.9	421.3	
年増加量 (ppm/年)	2.4	2.4	2.2	2.5	2.0	2.3	3.5	

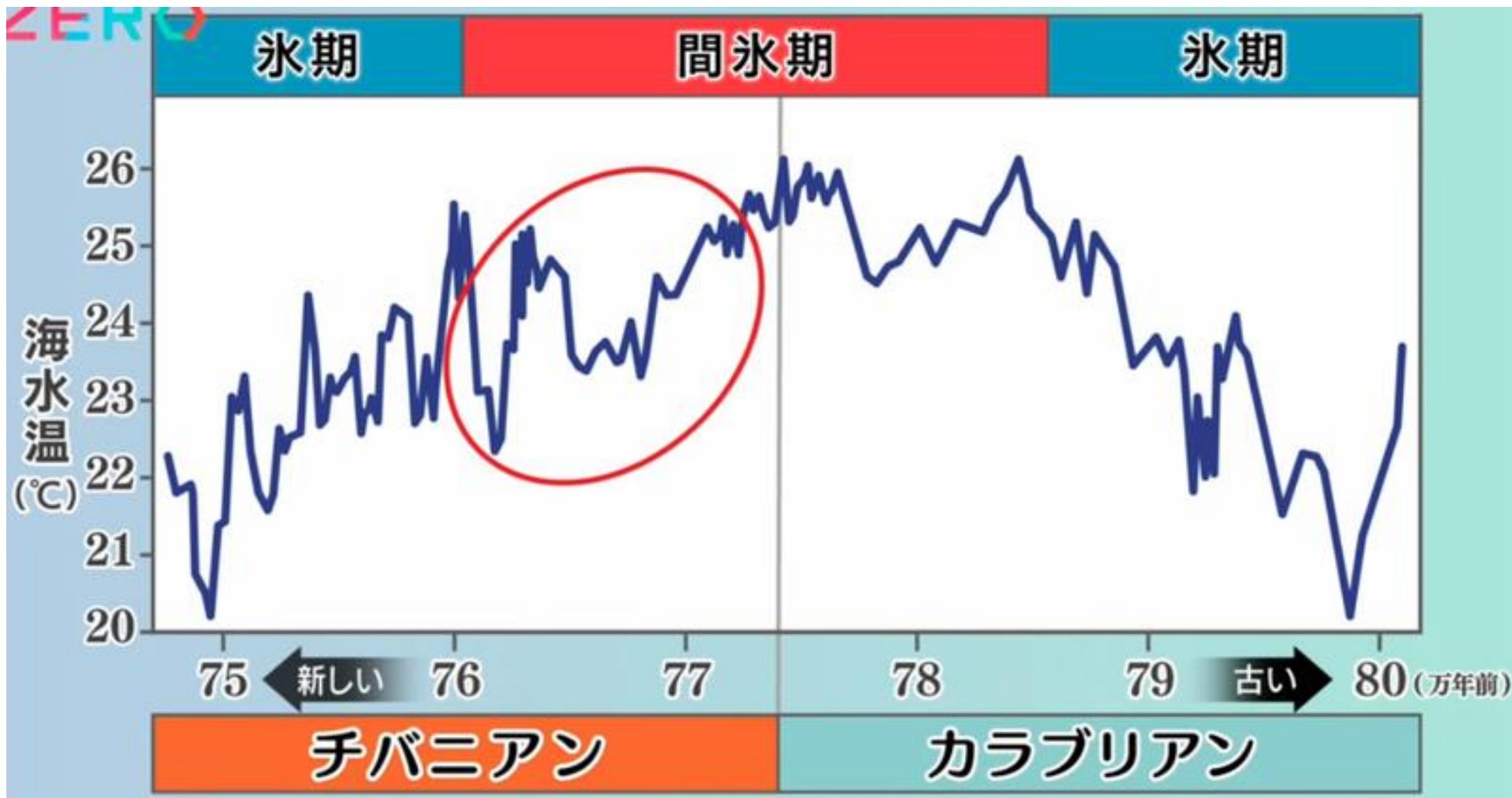
©環境省/NIES/JAXA

地質年代にチバニアン（77.4万～12.9万年前の地質）命名

2020年1月17日



ホモサピエンスが登場するのはチバニアン末期



パリ協定とは？

パリ協定とは

気候変動問題に関する国際的な枠組み（2015年に国連で採択、2016年に発効）

パリ協定の特徴

世界共通の長期目標が掲げられている

京都議定書の後継にあたる枠組みである

すべての締結国に義務が課されている

平均気温上昇

※産業革命以前と比較

目標 **2**度以内

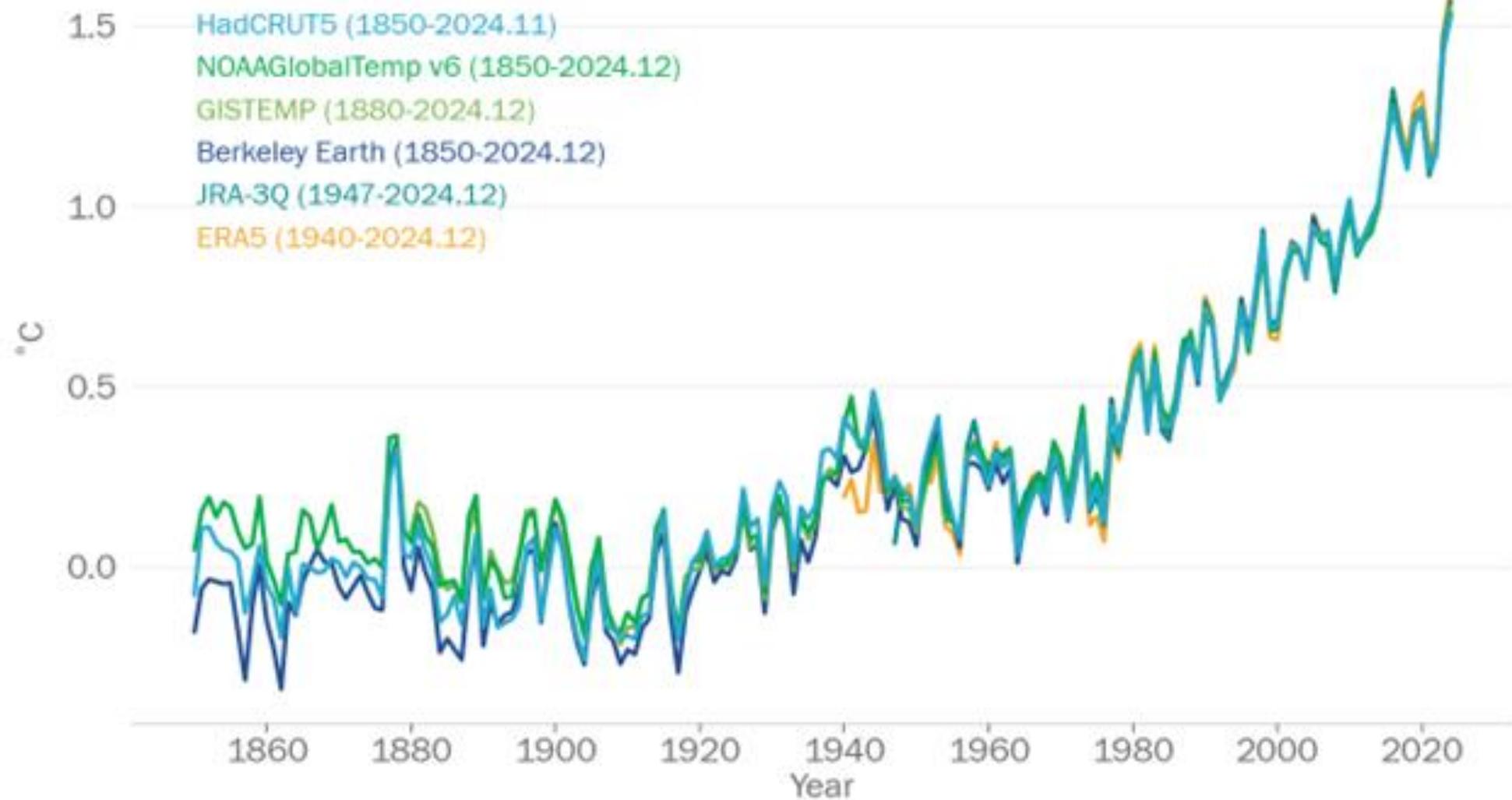
努力目標 **1.5**度以内



※パリ協定では、京都議定書の反省を生かし、長期目標とは別にすべての締結国に「5年ごとに削減目標の作成・提出」を求めている

Global mean temperature 1850-2024

Difference from 1850-1900 average



国名	1990年比	2005年比	2013年比
日本	▲18.0%	▲25.4%	▲26.0% (2030年までに)
米国	▲14~16%	▲26~28% (2025年までに)	▲18~21%
EU	▲40% (2030年までに)	▲35%	▲24%
中国	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに2005年比でGDP当たりの二酸化炭素排出を60~65%削減 2030年頃に二酸化炭素排出のピークを達成 		
韓国	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに、対策を講じなかった場合の2030年比で37%削減 		